

事例21

< 事例概要 >

迷入

- ① 50 歳代、慢性腎不全で透析中。うっ血性心不全、右気胸、膿胸があるJCS II -10 の患者。
- ② 動脈の表在化を行っていたが静脈への返血困難のため、血液浄化用カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 15.6 kg/m²。抗血栓薬の使用は不明。
- ④ 右大腿静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。挿入中、疼痛の訴えと体動が激しく、患者を押さえながら10 回以上穿刺。ガイドワイヤー挿入時の抵抗はなく、カテーテル挿入後、逆流を確認。X線でカテーテルの走行異常を認めたが、逆流を認め、注入もスムーズであったため、輸液ポンプを用いて高カロリー輸液を開始。約1 時間後に、透析開始。カテーテルからの脱血は困難で、表在化動脈から脱血し、カテーテルから返血した。透析開始から10 数分後に血圧が低下し透析中止。急変から約20 分後に死亡。
- ⑤ 死因は、血管外留置となったカテーテルへの返血による腹腔内出血（推定）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。